

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針 ①	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を作成するに当たり、保護者や地域の実態・ニーズを踏まえて設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の実態やニーズに合った学校教育目標になっている。 ○保護者のアンケート結果を見ても、学校の教育方針が受け入れられていることがわかる。 ○児童にもわかりやすい言葉で馴染みやすい目標といえる。 ○しかし、そう思わない保護者もいた。
	児童			<p>課題への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の声を、アンケート等から聞き取り、なるべく聞き入れられるようにしたらよい。 ○反映の可否やその理由等、なんらかの説明をしていく。 ○反映していることが伝わりづらい部分がないか検討する。
	保護者	学校は、保護者のニーズをとらえて学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校は保護者地域の声を学校教育目標に反映できていることに自信を持っていい。学校だよりやHPでうまくPRを進めている。 ○更にということであれば、メール等で保護者地域の声を集めていくのも良いかと思う。
	地域	学校は、地域の声を反映して学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針 ②	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を、保護者や地域住民に広く周知している。		<p>評価の結果について</p> <p>○ICTが進み、周知の方法の選択肢が増えている。様々な状況の方に周知するためには、デジタル・アナログを両方活用していく必要がある。</p>
	児童	私は、学校教育目標を知っている。		<p>課題への解決策</p> <p>○教育目標と具体的取り組みの関連について、児童にもわかるように説明をしていく。そして、その効果(どのように目標に近づいたか)の振り返りも児童に周知を図り学校の目指すところを共有することで、より深い意味での周知を図る。</p>
	保護者	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。		<p>学校関係者評価による評価</p> <p>○肯定的意見の児童が多いが、教職員には「だいたいそう思う」もある。教職員が自信を持って「そう思う」にならない理由は何か。この部分の考察と改善があると良い。</p>
	地域	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。		

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
教育課程・学習指導 ③	教職員	教職員は、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>56%</td></tr> <tr><td>②</td><td>44%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	56%	②	44%	③	0%	④	0%	⑤	0%	<p>評価の結果分析・課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の「わかる」と教職員の「わかっている」の齟齬をなくす必要がある。 ○普段から児童理解を深め信頼関係の醸成に努めていることが児童の学ぶ姿勢に結びついていると考える。 ○「わかりやすいと思わない」と答えた3%の児童に寄り添うために、授業のユニバーサルデザインを大切に共通理解していく必要がある。 ○児童の肯定が教員より高いのは、ICTを活用し、児童の興味関心を引く工夫を学校全体で取り組んでいることと、ICTをまとめや調べる学習活動でも積極的に活用していることの効果と考えられる。
	評価項目	割合														
	①	56%														
	②	44%														
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															
児童	先生方は、わかりやすく工夫した授業をしている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>81%</td></tr> <tr><td>②</td><td>16%</td></tr> <tr><td>③</td><td>2%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	81%	②	16%	③	2%	④	0%	⑤	0%	<p>課題の解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用と教材研究を更に進め、児童の意欲向上と達成感につながる授業改善を行う。 ○まとめや振り返りの見届けを確実にし、児童の「わかる」に寄り添う。 ○全体の3パーセントが否定的にとらえているので、ユニバーサルデザインを意識した授業を心がけ、学年・学校単位で教材研究・教材開発の時間を確保する必要がある。 	
評価項目	割合															
①	81%															
②	16%															
③	2%															
④	0%															
⑤	0%															
保護者			<p>学校関係者評価による委員会評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の意欲や集中力を高める工夫をしてくれている授業が多い。 ○教科書の問題だけでなく、実態に合わせて先生方が用意してくれている問題が、児童の伸びに繋がっていると思う。 ○モニターが座席の位置によっては見づらいようである。 ○ICT機器の活用により、学び方が進化し、効果が出ていると思う。 													
地域																

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
教育課程・学習指導 ④	教職員	児童は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価分析結果について</p> <p>○保護者や地域の方の評価は、行事等で児童の様子を見るので、緊張感があったり、良い姿・頑張ってる姿を見ていることが多いのかも知れない。 ○普通の授業では、教職員・児童自身は、話をよく聞き、落ち着いた態度で学習していないという回答もある。それはその児童の自己評価かもしれないし、友達のこともかもしれない。いずれにしても、みんなが集中して取り組み、誰もが勉強ができるようにしていかなければならない。</p>
	児童	私は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題への解決策</p> <p>○落ち着いた態度で授業を受けられるように、机の上に授業に必要な物だけを入れる指導を徹底する。 ○教職員や友達同士の話を最後まで聞くことができる学級経営を行う。教職員側は児童の興味・関心をひき付ける授業の展開や教材の用意を行う。</p>
	保護者	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価による委員会評価</p> <p>○学年が上がるごとに集中している児童が増えていると感じる。指導が累積されている成果ではないか。 ○わかりやすい授業・関心を持てる課題など一人ひとりの先生方の努力・工夫が伝わってくる。時間をきっちり区切るなど、聞くときと話し合うときの切り替えが上手にできている。</p>
	地域	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑤	教職員	教職員は、児童の問題行動等に対して、組織的に、毅然とした態度で対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について</p> <p>○全ての教職員が、児童の問題行動に対して、毅然とした態度で対応していると思っている。一方で、5%の児童が「あまりそう思わない」「そう思わない」と感じている。 ○教職員の質問項目と児童の質問項目に差がある。</p>
	児童	先生方は、いじめやトラブルなどの問題に対して、きちんと指導してくれる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決の方策</p> <p>○言葉にすることが難しい児童もいるので、児童の小さなサインに目を向けることや、学校生活アンケートの聞き取りをより一層大切にすべきである。 ○教職員の質問を「教職員は、児童の問題行動に対して、傾聴し、解決後も見守りを続けている。」などにすると、児童の質問項目に合う。</p>
	保護者	教職員は、児童が学校の決まりや集団生活・社会生活でのルールやマナーなどが守れるよう指導している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>○教師と仲良くなるのはいいが、距離感が近すぎて言葉遣いが適切でないことが気になる児童もいた。節度は大切である。</p>
	地域			

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑥	教職員	児童は、学校の決まりを守り、学校生活を送っている。	<p>40% 56% 4%</p>	<p>評価結果について</p> <p>○96%の教職員は、児童が学校の決まりを守って学校生活を送ることができていると評価している。比較的、落ち着いて学校生活を送ることができていることがわかる。 ○一方で、4%の教職員は、あまりそう思わないと回答していることから全体で学校のきまりの共通理解を引き続き図っていく必要がある。</p>
	児童	私は学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<p>65% 31% 4%</p>	<p>課題の解決策</p> <p>○教職員と同じように、多くの児童がきまりを守って生活していると回答している。「そう思う」と回答している児童が多いことから、自信をもって決まりを守って生活できていると自己評価していることがわかる。 ○「あまりそう思わない」と回答している児童もいる。不満に思っている児童もいるかもしれないという目線を持ち学校全体で見守っていく必要がある。</p>
	保護者	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<p>48% 47% 5%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>○見る限りでは、非常によくきまりを守れていると思う。そのことにもっと教職員も児童も自信が持てるとよい。 ○頑張っている児童をもっと褒めていくと良いと思う。</p>
	地域	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。	<p>50% 45% 5%</p>	

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑦	教職員	児童は校内ですすんであいさつをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の自己評価に比べ、教職員や地域の方の評価が低い。 ○伝わるあいさつについてさらに指導する必要がある。 ○あいさつしているという児童の肯定的評価を伸ばしていくという学校の指導方針を地域と共有していく必要がある。
	児童	私は、すすんであいさつをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員、保護者、地域の方で歩調をそろえ、大人自ら進んで児童に挨拶をし、手本となるように心がける。 ○挨拶の意味を繰り返し指導していく。 ○積極的に挨拶できる環境やキャンペーン等を児童と一緒に企画立案する。 ○児童自身が自分のあいさつを肯定的に捉えているので、そこを自信に変えられるよう、前向きな声かけをしていく。 ○全体7%の否定的に捉えている児童に対しては、苦手間を否定せず、その児童なりの取り組みを評価し、肯定的に捉えられるようにする。
	保護者	児童は、家族や近所の人にすすんであいさつをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	
	地域	児童は、地域の人にすすんであいさつをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の様子に比べ教職員の評価が低いのに驚いた。もう少し児童の頑張りを評価して良いのではないか。 ○保護者の評価が低い、親が挨拶する姿を見せて子に教えることも大事。評価の結果を自分のこととして家庭内の挨拶から向上させることを考えてほしい。

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
全 ⑧	教職員	学校は、登下校時の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価の結果に課題について</p> <p>○児童がどんなところに登下校で不安を抱えているのかを把握できるよう児童に寄り添う。 ○常に不安なことを相談できる環境とカウンセリングマインドを持つ。</p>
	児童	安全に、安心して登下校できる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題への方策</p> <p>○見守りなどの活動をしてきている地域の方へのお礼を言う場面を一斉下校などの際に設け、地域一体になって子どもを見守っていることを児童や保護者等に周知する。 ○教職員も放課後の時間ができたときにパトロールをしていることを周知する。</p>
	保護者	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>○教職員には時間も人数も限度がある。地域の評価が一番低くなっているが、地域の協力体制の強化が不足していることの表れではないか。○不安を感じている人の声を吸い上げ、学校任せでなく連携し、地域でも協議して改善につなげる必要を感じる。</p>
	地域	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
保護者・地域との連携 ⑨	教職員	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>84%</td></tr> <tr><td>②</td><td>16%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	84%	②	16%	③	0%	④	0%	⑤	0%	<p>評価分析結果・課題について</p> <p>○OHPの更新や40thを使っでの学校からの連絡など、こまめに行っている。 ○画像を残しておくことで、誰でもHP等を更新できるような連携ができています。 ○他学年の動きも教職員同士把握しやすい状況にあり、保護者・地域との連携に功を奏している。</p>
	評価項目	割合														
	①	84%														
	②	16%														
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															
児童			<p>課題の解決策</p> <p>○ほとんどの意見が肯定的なことから、情報の発信は十分であると考えます。 ○特に学校HPには、学年だよりや下校時刻などもアップされているので学校の動きもわかりやすく、今後も続けていくのが望ましい。</p>													
保護者	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>67%</td></tr> <tr><td>②</td><td>30%</td></tr> <tr><td>③</td><td>3%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	67%	②	30%	③	3%	④	0%	⑤	0%	<p>学校関係者評価による評価</p> <p>○児童の自問清掃や縦割り清掃の取組を引き続き充実させ、本校のよき伝統となることを目指して全校共通理解のもと推進していく。 ○児童の望ましい活動や変容を積極的に認め励ます指導・支援を大切にしていく。 ○HP等を活用し、情報発信していく。 ○掲示教育については、年間の計画を見直すなどして、さらに工夫改善していくようにする。</p>	
評価項目	割合															
①	67%															
②	30%															
③	3%															
④	0%															
⑤	0%															
地域	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>80%</td></tr> <tr><td>②</td><td>20%</td></tr> <tr><td>③</td><td>0%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	80%	②	20%	③	0%	④	0%	⑤	0%		
評価項目	割合															
①	80%															
②	20%															
③	0%															
④	0%															
⑤	0%															

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
保護者・地域との連携 ⑩	教職員	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。		<p>評価結果について</p> <p>○学校応援団も適切に運営されており、教職員からの評価は高いように見える。特に低学年では生活科、中学年以上はGETの活動時に活用させていただくことが多い。 ○教職員と保護者の間での認識の違いはあまりないので、「そう思う」の数値を高めることができるよう、気軽な人材活用ができる環境が望まれる。</p>
	児童			<p>課題への方策</p> <p>○様々な教科で横断的に人材活用ができるよう、人材リストのデータ化、クラウド化が期待される。 ○年間指導計画に、「この単元では〇〇の△△さんに協力を仰ぐ。」といったように、例が記載されているとより活用が容易になる。</p>
	保護者	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>○肯定的評価が高いが、教職員には半数しか「そう思う」がない。もっと活用できる・したいと思っている教職員は要求を上げるべき。○求められてからしかできない協力もあるし、どんな協力が必要なのかわからない地域の人も多いはず。</p>
	地域	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。		

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校環境 ⑪	教職員	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れる など、組織的に環境美 化に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評 価 分 析 果 ・ 課 題 について</p> <p>○肯定的評価が教職員・児童・保護者、いずれも昨年度より増加している。 ○昨年度から取り組んでいる自問清掃や、今年度新たに始まった縦割り清掃等の取組の成果と考える。 ○学校HPでのタイムリーな情報発信などからも保護者の理解が得られの評価されていると思われる。 ○掲示教育についても、充実したものとなるように計画的に取り組んでいく必要がある。</p>
	児童	私は学校をきれいに しようと心がけ、清掃 をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課 題 へ の 解 決 方 策</p> <p>○児童の自問清掃や縦割り清掃の取組を引き続き充実させ、本校のよき伝統となることを目指し推進していく。 ○そのために、教職員は児童の望ましい活動や変容を積極的に認め励ます指導・支援を大切にしていく。 ○保護者・地域の方へも学校HP等で情報発信していく。 ○掲示教育については、年間の計画を見直すなどして、さらに工夫改善していく。</p>
	保護者	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 による 評価</p> <p>○参観時に、短い時間で集中してよく清掃をしている姿を見て、素晴らしいと思っている。 ○肯定的評価が教職員・児童・保護者・地域が一致してほぼ全員であることも含めて素晴らしい。</p>
	地域	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤 小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革⑫	教職員	⑫学校は、働き方改革を進め、教科指導や教育相談等、直接児童に係る時間が増えるよう努めている。	<p>56% 44% 0%</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果について</p> <p>○業務の電子化が進み、学校滞在時間は確実に減っている。 ○連絡帳の電子化により児童の下校後にも返信連絡ができるようになったため、児童在校時間中に児童に目を向けられる時間を確保しやすくなった。 ○時間の使い方と連絡手段に工夫ができるようになったために、便利な反面、勤務時間外も連絡等対応する場面は増えている。</p>
	児童			<p>課題への方策</p> <p>○教員の働き方改革が、児童への寄り添いの強化、各種情報共有、教材研究による授業改善等、児童や学校の教育力向上のために有効であることを周知しつつ、勤務時間を意識した働き方を検討・推進していく。</p>
	保護者			<p>学校関係者評価による評価</p> <p>○教員のゆとりが、見守りや声掛けを増やし、児童や保護者の安心感につながると思う。 ○先生方が元気に笑顔でいる学校が良い。 ○勤務時間(対応可能な時間)を周知し、地域や保護者の理解・協力を求めていく。 ○地域が協力することで、学校の負担が減らせることを今後も協議していく。</p>
	地域			